

県産材製材品の表面線量調査の結果について

1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

2 調査時期 平成25年3月1日～平成25年5月31日

3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している121事業者について調査した。

4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	22	33	23	4	4	11	24	121
検体数(本)	220	302	201	24	24	65	240	1,076

5 調査結果

現在県産材が出荷されている121工場における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は35cpm（0.001 μ Sv/h*に相当）であった。

35cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 松田尚樹教授及び独立行政法人放射線医学総合研究所 鈴木敏和 外部被ばく評価室長に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04 μ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H25.5.9)	0.0450 μ SV/h

【調査結果内訳】

区分	表面線量 (cpm)				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
工場数	38	76	7	0	121
検体数(本)	829	238	9	0	1,076

最大値：35cpm
 最小値：0cpm
 平均値：1cpm

6 現在までの調査結果について

平成23年12月、平成24年3月、6月、9月、12月に調査を実施した。
(計5回)

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
今回調査	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。

7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考>

cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成

※詳細については下記URLを参照してください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/rad-accur/pdf/case_study_1_table_j.pdf